



Newsletter No. 36

Maxillofacial Prosthetics

発行人 松山美和

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

松山理事長のもと、新執行部がスタートしました

新理事長挨拶



理事長 松山 美和

今期令和4年6月より、一般社団法人 日本顎顔面補綴学会 理事長を拝命致しました松山美和です。ニュースレター 36 号の巻頭にて一筆ご挨拶申し上げます。

私は、本学会の広報委員会や学術委員会、編集・用語検討委員会、国際交流委員会などの委員を経て、平成23年以降は理事として学会運営に携わり、第35回総会・学術大会（平成30年）の大会長も務めさせて頂きました。これらの経験を通して、本学会の学会活動が前進的かつ精力的であることを十分認識し、かつ、誇らしく感じております。近年は、診療ガイドラインの作成や新規材料の開発、新技

術の保険収載、若手研究者の海外研修など多くの素晴らしい成果をあげております。ご尽力頂きました理事や各種委員会委員、会員のみなさまに敬意を払うとともに、深謝致します。

今期はこれらの活動を継続するとともに、新たに、関連学会との連携強化を図り顎顔面補綴の研究・臨床・教育を推進すること、われわれのもつ顎顔面補綴の知識と技術を地域医療に広く提供し支援すること、の2つを活動方針に加え、国民のみなさまの健康と福祉の増進に貢献したいと考えます。現在、社会保険に提言できるエビデンスを得るため医療委員会主導の顎顔面補綴治療タイムスタディーが遂行され、特命委員会と学術委員会主導で日本顎顔面インプラント学会と共同して多機関共同研究が計画されています。また、第40回総会・学術大会（令和5年6月開催）では初のハンズオンセミナーが開催されます。このセミナーを参考に、新たに立ち上げた地域医療支援委員会主導でわれわれがもつ知識と技術を広く地域医療に拡げていきたいと考えます。

浅学菲才の身ではありますが、本学会のさらなる発展のために尽力して参る所存です。会員のみなさま、さらなるご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

新理事・新委員会 紹介

理 事

理 事 長：松山 美和

副理事長：関谷 秀樹

理 事：足達 淑子, 井原 功一郎, 大山 哲生,
尾澤 昌悟, 古賀 千尋, 小山 重人,
佐渡 忠司, 隅田 由香, 武部 純,
中島 純子, 生木 俊輔, 西脇 恵子,
秀島 雅之, 堀 一浩, 模原 絵理,
宮本 哲郎, 山下 善弘, 吉岡 文

監 事：山森 徹雄, 米原 啓之

幹 事：大木 明子

編集・用語検討委員会

委 員 長：堀 一浩

委 員：井原 功一郎, 荻野 洋一郎, 尾澤 昌悟,
高阪 貴之, 佐渡 忠司, 白石 成,
隅田 由香, 武部 純, 生木 俊輔

~~~~~  
今期から編集用語検討委員会の委員長を引き継ぎました。山森前委員長をはじめとして、諸先生方が築いてこられた歴史ある学会誌を今後も実りあるものとしたいと考えています。今期は新たに4名の新委員に加わって頂きました。前期に引き続き、学会誌の査読・発行および、用語集の改訂作業を行います。会員の先生方にはぜひ貴重な研究・臨床の成果を論文として投稿して頂きますようお願い致します。

### 国際交流委員会

委 員 長：尾澤 昌悟

委 員：荻野 洋一郎, 服部 麻里子, 秦 正樹

~~~~~  
国際交流委員会の活動は、コロナ感染拡大により大きな影響を受けています。若手研究者短期海外研修は、2期連続の延期となってしまいました。その間の国際情勢の変化は周知のとおりですが、委員会としては安心安全に研修できる環境が整うことを願っています。

今期は2名の新しいメンバーに入って頂きました。荻野先生は留学経験もあり、国際的に活躍なさっており、秦先生は記念すべき第一回研修のメンバーであることから、お二人の経験が委員会の活動を後押しすることと思います。お忙しい先生ばかりですが、今期こそは学会の研修事業を進めるべく、情報収集をしていきたいと思っています。

医療委員会・社会保険委員会

委 員 長：隅田 由香

委 員：臼井 聡美, 大木 明子, 大山 哲生,
佐々木 啓一, 佐藤 裕二, 佐渡 忠司,
高橋 英和, 西山 雄一郎, 松本 知生,
村瀬 舞, 吉岡 文

~~~~~  
今期の医療委員会では、松山理事長のご高配のもと、委員の増員を致しました。この場を借りまして、松山理事長とご多用のなかお引き受けくださいました委員の先生方に感謝申し上げます。

顎顔面補綴学会の悲願として、顔面エピテーゼ材料の薬機承認を目指した交渉を継続しております。多くの困難がございますが一つ一つ最善を尽くして参ります。また、2024年保険改定に向けてタイムスタディーを開始しております。エビデンス構築から提案書作成・提出まで限られた時間しかございませんが、委員一同全力を尽くします。

先生がたのより一層のお力とご指導を賜りますことを、改めましてお願い申し上げます。

### 学術委員会

委 員 長：小山 重人

委 員：石崎 憲, 大山 哲生, 荻野 洋一郎,  
西脇 恵子, 堀 一浩, 山内 健介,  
山下 善弘

~~~~~  
今期の活動目標は、長年の懸案事項であった「広範囲顎骨支持型装置・補綴の多施設研究」と「PAPハンズオン」の実施となります。どちらも新しい試みで皆様のご協力が必須となります。どうぞよろしくお願い致します。

広報委員会

委員長：中島 純子

委員：猪原 健，大木 明子，関谷 秀樹，
勅使河原 大輔，宮本 哲郎，吉岡 文

広報委員会では、学会誌とともにお届けしているニュースレター、学会 HP の改編を担当しております。これまで、会員の先生方のご意見を受け、HP では認定医・認定士等のページの刷新、会員個人ページの開設を進めてまいりました。予算との兼ね合いで、一気に改編ができず心苦しい思いではありますが、会員また非会員で顎顔面補綴にご興味をお持ちの方々が、必要としている項目から順次改編をしていきたいと思います。

認定医制度委員会

委員長：楢原 絵理

委員：石崎 憲，大山 哲生，門田 千晶，
古賀 千尋，生木 俊輔，西脇 恵子，
福井 沙矢香，山口 能正

今期より古賀千尋前委員長よりバトンを渡され、委員長を拝命致しました。顎顔面補綴治療は多職種の方々の協力なくして成り立たないものです。歯科医師だけでなく、毎日臨床に携わっている歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士の皆様の認定士申請を心よりお待ちしております。

会則検討委員会

委員長：関谷 秀樹

委員：尾澤 昌悟，寒河江 孝，澤田 俊輔，
生木 俊輔，山内 健介

3 期目の会則検討委員長を拝命しました。1 期目では、特別名誉会員に関する会則や倫理・COI 規約などの制定、2 期目では、個人情報取り扱い変更に関する倫理委員会への会則修正提言などを行いました。今期、松山新理事長より、副理事長を 2 名にする必要性についてご提案頂き、新理事会にて承認されました。それを受けて、定款の変更

を必要とするため、定款第 63 条に従い、次回社員総会の決議事項として、会則検討委員会より発出する予定です。ご検討をよろしくお願い致します。

診療ガイドライン委員会

委員長：大山 哲生

委員：石崎 憲，中島 純子，中林 晋也，
秦 正樹，服部 麻里子，原口 美穂子，
皆木 祥伴，宮前 真，村上 和裕

診療ガイドライン委員会は、幹事を含めまして 11 名体制で診療ガイドラインの改定という非常に険しい山脈を乗り越えるべく再始動をしています。自分達は出来ると信じて頑張りますのでご支援よろしくお願い致します。

学際連携委員会

委員長：西脇 恵子

委員：加賀谷 昇，門田 千晶，佐渡 忠司，
去川 俊二，白石 成，谷口 裕重，
西川 圭吾，福井 沙矢香，佐々木 力丸，
宮本 哲郎，足達 淑子

今期の活動目標は、長年の懸案事項であった「広範囲顎骨支持型装置・補綴の多施設研究」と「PAP ハンズオン」の実施となります。どちらも新しい試みで皆様のご協力が必須となります。どうぞよろしくお願い致します。

特命委員会

委員長：佐渡 忠司

委員：大山 哲生，管野 貴浩，小山 重人，
関谷 秀樹，高橋 哲，堀江 伸行，
松山 美和，柳井 智恵

今回特命委員会は新たな課題として、広範囲顎骨支持型装置に関する多施設共同研究を中心に日本顎顔面インプラント学会との連携に取り組むこととなりました。新委員一丸となって、共同研究を管掌する学術委員会を支えながら、両学会の連

携を具体化していく検討を進めているところです。
会員の皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

倫理委員会・COI委員会

委員長：井原 功一郎

委員：足達 淑子，門田 千晶，関谷 秀樹，
生木 俊輔，宮本 哲郎

~~~~~  
本年度から、倫理委員会とCOI委員会が統合されましたので、多職種の先生方に委員になって頂きました。倫理委員会では、本年度から厚労省からの研究に関する指針について、一部変更がありましたので、それに伴って本学会の倫理規定の一部見直し、修正が必要になりました。今年度は、その改定に努めて参りたいと考えております。

## 地域医療支援委員会

委員長：吉岡 文

委員：猪原 健，門田 千晶，佐渡 忠司，  
澤田 俊輔，島崎 信子，中島 純子

~~~~~  
今期より新設された地域医療支援委員会では、地域歯科医師会等と連携して顎顔面補綴の知識や技能を広く展開することにより、地域を問わず、顎顔面補綴治療が必要な患者様の健康を維持することを目的としています。具体的には地域歯科医師会と連携し、顎顔面補綴に関する講演やハンズオンセミナーを行うことを目指しています。会員の先生方に様々な場面でご助力頂くことがありと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

財務委員会

委員長：秀島 雅之

委員：大山 哲生，尾澤 昌悟，関谷 秀樹，
松山 美和

~~~~~  
松山新理事長の提案にて、この度発足しましたのでよろしくお願い致します。

これまで事務局のサポートの下、会計担当理事、理事長とで予算配分、各委員会の必要経費の支弁

等を決済して参りましたが、今後は当委員会がより有機的に各委員会の活動を支援し、学会の活性化を図る所存です。関係各位に周知の程、よろしくお願い致します。

## アドバイザー委員会

委員：鱒見 進一，小野 高裕

~~~~~  
今期より、委員の先生方の学会運営に関して、これまでの経験、知識や人脈を理事会にご助言、ご指導を頂きたい、という趣旨で、新たに本委員会が設立されました。

学会 HP 会員ページの ID・PW について

この号が会員の皆さまのお手元に届くころ、学会 HP に会員ページが開設される予定です。近日常に、皆さまの元にログイン ID および初期設定のパスワードを、学会事務局よりメールでお知らせ致します。なお、ログイン ID は 4 桁で表示される学会の会員番号となっております。会員番号が 4 桁に満たない先生は、「00XX」のように頭に 0（ゼロ）を付けて頂きますよう、お願い致します。

初回ログイン頂きましたら、勤務先住所等の登録情報をご確認頂き、最新の情報に更新ください。今後変更があった場合にも、こちらのページから変更をお願い申し上げます。

第40回総会・学術大会案内



大会長 武部 純（愛知学院大学）

会 期：2023年6月1日（木）～3日（土）

会 場：愛知学院大学楠元キャンパス内

（愛知学院大学110周年記念講堂）

（愛知県名古屋市中千種区楠元町1-100）

この度、米原前理事長、松山理事長をはじめ理事の先生方、そして本学会の諸先生方のご高配を賜り、一般社団法人日本顎顔面補綴学会第40回総会・学術大会を愛知学院大学にて担当させて頂くことになりました。私ども愛知学院大学にとりましては、田中貴信先生（歯学部有床義歯学講座・教授：当時）が大会長を務められた第29回学術大会（2012年6月）以来、10年ぶりの学術大会担当となります。このような貴重な機会を与えて頂きましたことに深く感謝の意を表すとともに、大会長として謹んでご挨拶を申し上げます。

第40回大会では、基調講演に新潟大学の小野高裕先生をお迎えし、ご講演を頂きます。特別講演では愛知県がんセンターの花井信広先生をお迎えし、ご講演を頂きます。学術企画では、小山学術委員長をはじめとする学術委員会の先生方の多大なご尽力により、第27回教育研修会、そして本学会初の第1回ハンズオンセミナーが用意されています。

今回の大会テーマは、「社会に寄り添う顎顔面補綴」と致しました。今なお新型コロナウイルス感染症の影響が続いておりますが、ワクチン接種が進み、社会はウィズコロナ&アフターコロナに向けた動きが進んでいます。このような社会へ寄り添うように、顎顔面補綴臨床においては、患者様中

心の医療を基本姿勢として様々な疾患に対する治療が行われております。そこで、会員の先生方のディスカッション、交流を主体とした対面での学術集会とすべく、研究発表と活発なディスカッションができる場を大切にしたいと考えて、一般口演を従来の15分とさせて頂きました。

皆様が安心・安全にご参加頂けるよう、われわれ担当校一同、全力で準備に取り組んでまいりますので、皆様のご参加を、心よりお待ち申し上げます。



愛知学院大学 楠元キャンパス

第39回総会・学術大会報告

令和4年6月23日（木）から25日（土）までの3日間、ニューウェルシティ宮崎にて一般社団法人日本顎顔面補綴学会 第39回総会・学術大会を、ライブ配信も併用して開催致しました。3年ぶりの対面での学術大会の開催となり、本学会ならではの熱い討論も復活し、参集型の学会の良さを再認識致しました。また、九州地区での開催も14年ぶり、初の宮崎県での開催となり、新鮮さをも感じる学会となりました。

本学術大会のテーマ「顎顔面補綴の新たな展開—外科と補綴の融合—」の通り、顎顔面補綴が関係するインプラント治療、再建手術、がん治療に関するシンポジウム、教育研修会が開催され、複数の領域にまたがる最新情報を得ることができ、有意義な学びの場となりました。そして、会員の皆様からは一般口演14題、ポスター発表11題を頂き、会場ではいつも以上の活発な討議が繰り広げられました。

大会長の山下善弘先生をはじめ、宮崎大学顎顔面口腔外科学講座の先生方におかれましては、2020年の第37回学術大会もご担当頂きましたが、今回の開催においてもCOVID-19の感染流行状況に注視されつつ、参集型での開催に向け非常にご苦勞の多い学術大会の運営でいらしたと存じます。先生方のご尽力に、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

(広報委員 中島純子)



教育研修会

「がん治療に伴う顎口腔機能障害への対処法」というテーマで行われた宮崎大会の教育研修会は、顎顔面補綴医として、頭頸部がんに関わる上で、研修が必須と思われる内容であった。「頭頸部がんにおける化学療法および放射線療法の現状」では、宮崎県立宮崎病院耳鼻咽喉科の川畑隆之先生に、最近の化学療法、特に免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬などの有害事象と口腔症状について学んだ。「がん治療に伴う顎口腔機能障害への外科的対処方法―薬剤関連顎骨壊死の現状と課題―」と題し、東北大学顎顔面・口腔外科学分野の山内健介先生には、骨転移に対して使用するビスフォスフォネート製剤やデノスマブ製剤の副作用である薬剤関連顎骨壊死（ARONJ/MRONJ）によって生じる、腐骨除去などの骨髄炎手術後の顎欠損への対応や、保存的対応などを学んだ。「がん治療に伴う顎口腔機能障害への補綴的対処法：特に咀嚼機能について」と題し、九州大学口腔機能修復学講座の荻野洋一郎先生には、こうしたがん治療に伴う、口腔機能低下について、口腔機能低下症の診断と口腔リハビリテーション、ISOからの顎補綴について学んだ。

がん治療は、多施設研究におけるエビデンスを

基に、日進月歩で進化する。がん診療に携わる顎顔面補綴医は、こうした知識を常にアップデートさせなければならず、情報源としての本学会の責務を痛感させられた次第である。演者の先生方に感謝申し上げます。

(広報委員 関谷秀樹)



名誉会員の表彰

本学会細則に則り、本学会の発展に貢献して下さった、塩入重彰先生、小野高裕先生（新潟大学）、佐々木啓一先生（東北大学）、高橋 哲先生（東北大学）、鱒見進一先生（九州歯科大学）が名誉会員に推薦、承認されました。

全員の先生のご出席とはなりませんでした。が、会員総会で表彰が行われました。



左から小野高裕先生、高橋 哲先生、米原啓之前理事長、鱒見進一先生

関連学会等の紹介

第28回 日本摂食嚥下 リハビリテーション学会学術大会 日本顎顔面補綴学会共催シンポジウム

2022年9月23日（金）、24日（土）の2日間、国際医療福祉大学の倉智先生を大会長として「摂食嚥下のSDGs」をテーマに、千葉市幕張メッセにて第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が行われました。昨年に引き続き今年もハイブリッド開催でしたが、昨年よりも現地参加された先生方が多かったように感じました。

今回の学会では、特別講演として歌手兼女優の堀ちえみさんがご講演されました。多くの方がんと診断されたがんサバイバーとしていろいろなメディアで情報を発信しておられます。本講演においても、障害に対する苦悩やリハビリテーションにおける苦労、ご家族への感謝などを赤裸々にお話頂き、患者目線の貴重な気持ちを聞くことができました。

また、シンポジウムのひとつとして「摂食嚥下リハビリテーションにおける補綴的アプローチ」を取り上げて頂きました。新潟大学小野高裕先生が座長、日本歯科大学の西脇恵子先生（言語聴覚士）、日本大学の福井沙矢香先生（歯科衛生士）と、私がシンポジストを務めさせて頂きました。顎顔面補綴の技術を応用し、舌接触補助床や軟口蓋挙上



シンポジウムを担当された（左から）、堀 一浩先生、福井沙矢香先生、西脇恵子先生、小野高裕先生

装置などの装置が、摂食嚥下リハビリテーションでも用いられます。これらの技術や適応、管理を多職種の先生方にも知ってもらおうと皆で話し合っていました。歯科関係者だけではなく、多くの医師やリハビリ職種の方に聴講に来て頂き、質疑応答も活発に行われました。我々の持つ技術や補綴装置を、今後も幅広い職種の方に知ってもらう活動を続けていきたいと感じました。本シンポジウムは日本顎顔面補綴学会との共催とさせて頂きました。改めて両学会の関係者に御礼申し上げます。

2023年度の学術大会は9月2日（土）～3日（日）にパシフィコ横浜ノースで開催される予定とのことです。

（堀 一浩）

頭頸部がんサポート研究会の発足

2021年11月に頭頸部がんサポート研究会が誕生しました。本研究会は、頭頸部がん患者・経験者が治療前から治療後を通して、安心して生活を送ることができるよう支援するための情報の共有、知識の交換、研究発表等を行うことにより、臨床やその他の関連領域との連携をとり、頭頸部がん患者・経験者への支援の均てん化を図ること、さらに、我が国における頭頸部がん患者への支援の発展に寄与することを目的としています。

第1回の研究会が2021年3月26日にハイブリッド開催され、最新の頭頸部がん治療に関する講演や、それぞれ異なる職種の活動紹介などが行われました。研究会には、看護師を中心に、医師、歯科医師、薬剤師、言語聴覚士、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、社会福祉士、ケアマネジャーなど、非常に多くの職種が参加しました。第1回の研究会にも関わらず、全国から100人ほどの参加があり、入院前から、治療中、治療後、退院後から社会復帰までの各プロセスにおける様々な支援の実態を研修する良い機会となりました。次回の研修会は2023年に予定しています。まだホームページ等はありませんが、ご興味ある方は研修会事務局 hnc.suppo@gmail.com までご連絡してください。

（広報委員 吉岡 文）

関連書籍紹介



「顎骨再建とインプラントによる治療指針
一広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル」
日本顎顔面
インプラント学会編
(ゼニス出版)

公益社団法人日本顎顔面インプラント学会編集による「顎骨再建とインプラントによる治療指針一広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル」が2022年8月に発刊されました。本書の特徴は全編5章から構成され、顎骨再建方法についての総論的な解説に加え、再建顎骨に歯科インプラントを埋入する咀嚼機能を考慮した再建方法や保険導入されている広範囲顎骨支持型装置の治療方針について、臨床データに基づき解説されています。

顎骨再建方法については口腔外科・形成外科のエキスパートの先生方が執筆され、補綴の項目については本学会理事の小山重人先生、大山哲生先生にもご執筆頂いております。顎顔面補綴にかかせない顎骨再建とインプラントについての書籍は従来ありませんでしたので、是非ご熟読頂ければ幸いです。

(堀江伸行)

関連学会のご案内

- 第46回日本嚥下医学会総会・学術講演会
会 期：2023年3月3日(金)～4日(土)
大会長：藤本保志
(愛知医科大学耳鼻咽喉科学講座)
会 場：ウインクあいち
問合せ：(株) オフィス・テイクワン
E-mail：ssdj2023@cs-oto.com
<https://cs-oto3.com/ssdj2023/>

- 第47回日本口蓋裂学会総会・学術集會
会 期：2023年5月25日(木)～26日(金)
大会長：森山啓司
(東京医科歯科大学顎顔面矯正学分野)
会 場：一橋講堂
問合せ：(株) インターグループ内
E-mail：jcpa47@intergroup.co.jp
<http://jcpa47.umin.jp/>
- 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会
会 期：2023年6月15日(木)～6月16日(金)
大会長：猪原秀典
(大阪大学耳鼻咽喉科頭頸部外科)
会 場：グランキューブ大阪
問合せ：(株) メディプロデュース
E-mail：jshnc47@mediproduce.com
<https://www.mediproduce.com/jshnc47/index.html>
- 日本老年歯科医学会第34回学術大会
会 期：2023年6月16日(金)～18日(日)
大会長：菊谷 武
(日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)
会 場：パシフィコ横浜
問合せ：(株) コンベンションアカデミア内
E-mail：34jsg@coac.co.jp
<https://confit.atlas.jp/gero34>
- 第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
会 期：2023年7月1日(土)～2日(日)
大会長：工藤芳幸
(関西福祉科学大学保健医療学部)
会 場：関西福祉科学大学
問合せ：関西福祉科学大学保健医療学部
リハビリテーション学科言語聴覚学専攻
E-mail：jacd49osaka@gmail.com
<http://jacd49.secand.net/>

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会
委員長 中島純子
委 員 猪原 健, 大木明子, 関谷秀樹,
勅使河原大輔, 宮本哲郎, 吉岡 文
E-mail：max-service@onebridge.co.jp